

亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 第2回小委員会（文化資料館）議事要旨

日 時：令和4年9月15日（木） 午後2時00分～4時00分

場 所：亀岡市文化資料館

出席者：中西裕樹委員・加藤美智恵委員・野原通夫委員・大矢寛恵委員・清水重敦委員・
鵜飼均委員

欠席者：安藤眞吾委員

○検討：新資料館の機能・規模・立地などについて、『新資料館構想』に記載している必要な機能などの情報を元に、事務局が資料説明。アドバイザーからは、「木造の博物館について」「今、博物館をつくるための提案」を説明いただいた。

◎委員による主な意見

- ・大事なものは、必要な機能のリストであり、欲しい部屋のリストではない。部屋ごとに固定した機能は、結局使いにくくなる。できるだけフレキシブルな空間、自由な空間を造るようになるのがよい。
- ・展示ケースは可動式が良い。壁に作り付けてしまうと固定した機能になる。
- ・資料に掲載されている以外に、若い人が勉強できる空間、デジタルコンテンツが楽しめること、ボランティア活動による案内、などの機能も大事。
- ・例えば他でもよくあるが、床に市域の航空写真を貼ると、博物館目当てではなく、一般の人に人気の場所となる。
- ・亀岡にとって、自然分野はかかせない。ただ、今の状況で資料館に自然分野を取り込むことは難しい。大学などと連携して、自然分野をカバーしてもらうのはどうか。
- ・文化資料館という名前は良い。文化財だけでなく、文化を大きく広くとらえる。亀岡の自然は、人と関わっているのが非常に魅力的。歴史の資料を扱いながらも、歴史だけでなく、自然環境もあつかえるのではないかな。
- ・展示以外で博物館に立ち寄りたと思うスペースが必要。
- ・何を使って人を集めるか。収蔵しておかなければならないものは何か。博物館の中に収蔵しないといけないものと、ちょっと離れた場所にあってもよいもの。
- ・立地は、城下町エリアであってほしい。複合施設となると総面積も大きくなるし、性格も違うし、別々に考えた方がよいのではないかな。
- ・新しく上下水道部の跡地に建てて、現在の場所は大型駐車場としてもよいのではないかな。
- ・現在はしていないが、貸館をするかどうかの検討が必要。（会議室や展示室の貸出など）。
- ・亀岡市は城下町を残していくのかどうか。正保城絵図にある道はほとんど残っている。
- ・フィールドミュージアムも人気があるので、博物館は、核となる施設として、城下町を回るしかけも必要。
- ・今後の建設までの流れの確認の中で、博物館特有の事象として、建物工事が完了したあと、「通

風乾燥期間」が必要となる。これは重要。すくなくとも「ふた夏」は越えないといけない。この期間中は、建物の中では展示準備ができないので、建設してすぐに開館はできないことを意識しておく必要がある。

- ・木造の博物館を造るための方法はいくつかある。木造だと、ちょこちょこ修理することができるので、メンテナンス費用が安い。コンクリート造は、耐震にも強いし、大規模修繕までの期間は長くなる。
- ・収蔵庫の管理は、耐火性も大事になる。建物全体の中で、木造とコンクリートを、その特徴に応じて使い分けることが大事。
- ・今、博物館を造るときに大事なこと3点。市民と一緒に、ソフト面だけでなく、ハード面も考える。マチと博物館の連携として、中身と外観を意識する。環境への配慮は大切。コンクリートは環境負荷が多い。木造もあきらめずに考えてみる。
- ・京丹波町役場が、地元の木材を使っている。亀岡でも、地元の木材を使えないか。
- ・木造で親しみやすい博物館も大事。
- ・市の中で、博物館をどういう位置にもってくるか？立地も大切。周辺の環境も大事。近くに公園などもあると人が集まりやすい。
- ・運営形態（直営、指定管理、地方行政独立法人、PFI）は、それぞれに長短がある。
- ・PFIは聞き慣れないが、官民連携による手法で、これから増えるのではないか。大規模な博物館だと、参入した企業も営利できる面（自主事業ができる余地）があると思われる。亀岡市の場合、そこまでのスケールをもった博物館ができるかどうか？
- ・官民連携の手法など、こういったシステムがあるということを理解することは必要。ただし導入ありきではなく、実際の目的に合致することが条件となる。
- ・学芸部門の直営は、譲れない。
- ・教育委員会管轄か、市長部局か、という判断も必要。市長部局では、市の目指す方針が博物館にも直結するので、予算がつきやすくなる。反面、博物館での裁量部分が減るので、資料保存や資料整理といった地味な本来業務が弱くなる傾向にある。
- ・現状の業務にどれだけの課題があって、どういう流れになるのか、見極めが大事。博物館の機能や施設配置にも関わる。資料調査や整理などを担う学芸スキルをもった人材の確保も大事。その他、外部に委託できる事業は外に出すのも大事。